# 中学生の「税」についての作文

市税務課では、納税意識の高揚を目的に、次代を担う中学生を対象に「税についての作文」を募集しました。この中から最優秀賞である小松島市長賞を受賞された小松島中学校3年生の渡邊 ひよりさんの作文を紹介します。

## いつかの日のためにできること

小松島中学校　三年
渡邊　ひより

私には忘れることのできない経験がある。それは女川中学校との交流会である。部活動の一環でインターネット上での交流だった。私はそのとき、東日本大震災によって残された被害の大きさや人々が負った傷の深さを実感することになる。

実際に目にしたわけでもないが、テレビで見たり、インターネットで調べたりする限り、私には想像もできないくらいの被害が出ていた。しかしどれだけの被害があっても その町で生活を営む人は居るし、営まなければならない状況にある人も居るだろう。最近の女川町の様子の写真をみると少しずつではあるが復興が進んでいる様子も見てとれた。復興した地域を見れば、人々には活気があり、とても被災した町に見えなかった。

もちろん、何のお金もかけずに復興することなどできない。調べてみると、東日本大震災からの復興にかかる費用の財源を確保するために、「復興特別所得税」が創設され、現在まで続いているとあった。被災した町の復興には税金が深く関わっていたのだ。

それだけでなく、税金は私たちの生活を支えてくれている。例えば、道路の整備、警察や消防の仕事、義務教育にかかる費用などである。身近な場面で利用されており、今の社会を維持しているのは税金なのだ。私たちが何かを売買したり、労働したりして納めることで結果的により良い社会になっていく。

しかし、自分から喜んで納めに行く人などなかなかいないだろう。実際、税金に悪い印象を持っている人が多いように思う。私は消費税くらいでしか納めていないが、それでも税金に対し、度々嫌悪感を抱いてきた。それが人助けに使われるものであったとしてもだ。

さらに、世界が情報化社会になったことでもっとマイナスのイメージがつくような情報を何度も目にした。働けば働くほど多額になる税金に嫌気がさした。自分の将来に希望もなにもなくなってしまうこともあった。

けれど、女川中学校との交流会を通し、さらに復興に関する知識を得たことによって税金に対するイメージは少しずつ変わってきた。自分が生活するために必要なもの、場所などのほとんどは税金によって用意され、支えられているのだ。今、嫌だと思っていたとしても、それはやがて自分たちが支えてもらう立場になったときに感謝をすることになるだろう。それだけでなく、震災に関することも。日本は地震大国だ。そして、膨大な被害を出すであろう南海トラフがあるとも予測されている。対策はできても起きたあとは支えてもらうしかない。だからこそ、いつかの日のために税金を納めるのだ。気付かないうちにも今税金によって支えられ守られているのだから。

だから私は、いつかの日のためにできることをしたい。税金を納めることはそれに繋がる大切な一歩なのだ。

表彰を受けた方は次のとおりです（敬称略）。

**【小松島市長賞】**

小松島中学校　3年　渡邊　ひより

**【審査員特別賞】**

小松島中学校　3年　川西　護
小松島南中学校1年　前川　櫻介

**【入選】**

小松島中学校　3年　林　莉奈
小松島中学校　3年　村瀬　美波
小松島南中学校1年　加古川　賢太郎
小松島南中学校1年　樫尾　美歩
小松島南中学校1年　福田　妃夏

**【佳作】**

小松島中学校　3年　大西　桜奈
小松島中学校　3年　髙島　愛莉
小松島中学校　3年　竹内　菜々
小松島中学校　3年　檜　貫助
小松島中学校　3年　藤田　小蒔
小松島南中学校1年　川風　梓
小松島南中学校1年　中村　悠人
小松島南中学校1年　大和　蒼杏

受賞・入選された方々

《今月は、固定資産税4期分、後期高齢者医療保険料5期分、国民健康保険税・介護保険料6期分の納付月です。》忘れずに納期限内に納めましょう。市税の納付は、確実・安心・便利な口座振替をご利用ください。